

いしづち

愛媛労災病院広報紙第9巻第4号

（通巻第58号）

2011年10月5日発行

発行人：病院長 内藤克輔

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進



下肢静脈瘤レーザー焼灼術	2		
集中治療部 (ICU) 紹介	3	最近の MR 室	3
新居浜公開糖尿病教室開催のお知らせ	4	新任医師の紹介	4
市民公開講座予定表	4		

下肢静脈瘤レーザー焼灼術

愛媛労災病院血管外科（副院長） 友澤 尚文

下肢静脈瘤の血管内レーザー焼灼術を2011年7月から始めました。伏在静脈ストリッピングと同等の治療効果が得られ、術後の有害事象がより軽微であることから、当院血管外科では伏在静脈瘤治療に対し血管内レーザー焼灼術を第一選択としております。実施数は大伏在静脈8例、小伏在静脈6例で、遠隔成績を見きわめる段階にありませんが若干の知見を得ました。皮下出血があっても点状程度の軽症がほとんどですが、2例に広範囲に斑状の出血をきたし患者、主治医とも驚きました。患者の背景や病状、手術手技に他症例と相違があったか否か今後の検討課題です。疼痛はほとんどが軽微なものでしたが、1例焼灼部位に有痛性の硬結を生じた患者がありました。焼灼する際の引き抜く速度にむらがあり、部分的に過剰焼灼となった結果かと推察しております。

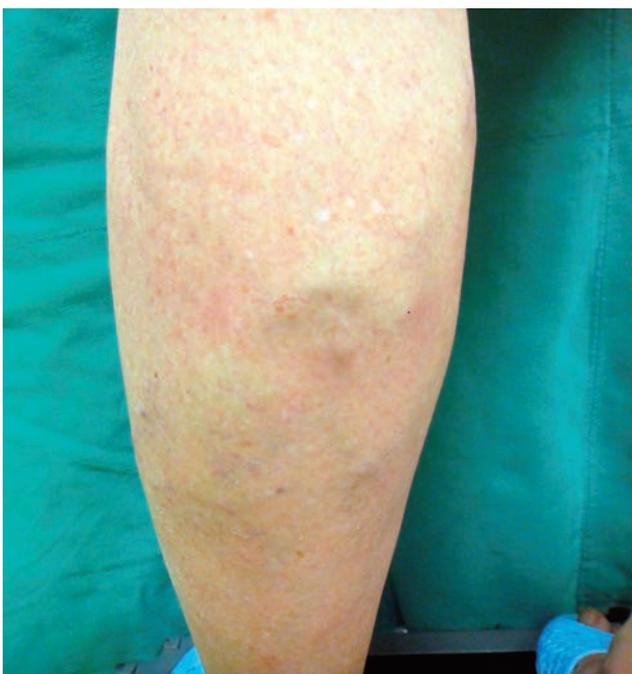
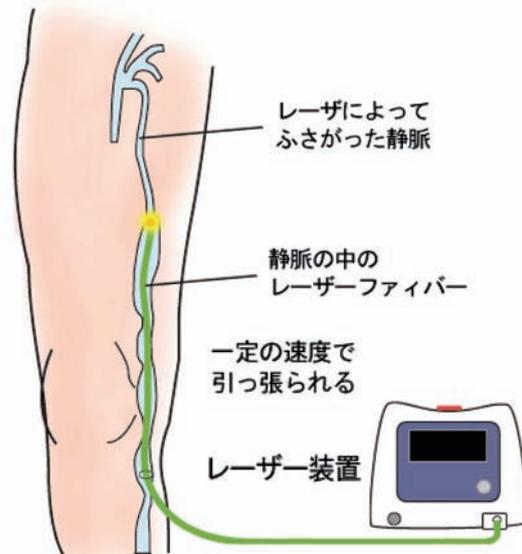
多数症例実施した米国の施設の治療成績を引用します。2年後の伏在静脈閉塞率は95%と良好です。有害事象は、斑状出血が50数%見られますが、2～3週間で吸取消失します。疼痛は約50%に発症しますが1週間以内に消失し、鎮痛剤を要するものは少数です。レーザーで焼灼された静脈は閉塞により硬結しますが、表在静脈炎は稀です。知覚異常が10%以下ですが発症し、小伏在静脈治療時に多いようです。重い有害事象の深部静脈血栓症は1%以

下の頻度であり、ほとんどが抗凝固療法で解決できたようです。

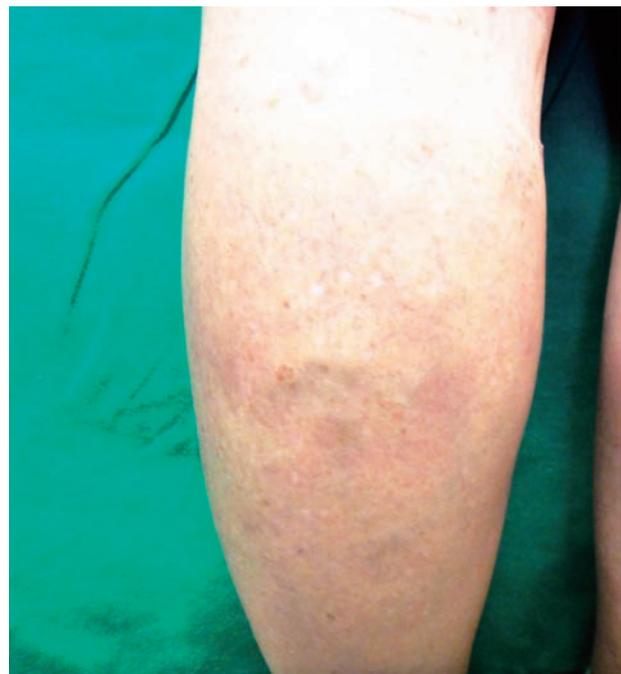
患者さんにはより高い満足度が得られるよう手術手技の工夫を重ねたいと思っています。足がむくむ、だるい、うつ滞性皮膚炎(湿疹)に悩まされている静脈瘤の患者さんは手術適応となります。ご紹介賜りましたら幸甚です。

下肢静脈瘤レーザー治療

保険適応によるレーザー治療を開始しました



治療前



治療後（翌日）

集中治療部 (ICU) 紹介

集中治療部部長 高橋 令子

当院の集中治療部(ICU)は、日本集中医療学会の認定施設であり、内科系・外科系を問わず、重症患者の治療を集中的に行っています。平成22年度の救急車受け入れ件数は706件、新規ICU入室患者数は439名と平成21年と比較して39名増加しました。定床4床で1日平均患者数は3.5名、病床稼働率は87.2%でした。院内外の救急患者や重症患者を收容し、呼吸不全や心疾患、ショック、外傷、一般術後など疾患はさまざまです。診療科別患者数は循環器科232名、外科110名、整形外科62名、産婦人科14名、泌尿器科8名、総合診療科5名、内科4名、麻酔科2名、歯科1名、形成外科1名であり、循環器科がICU入室総数の53%を占めています。重症患者の24時間のモニタリングは気が抜けず緊張の連続ですが、異常の早期発見と予測ができる看護ケアが提供できるよう、日々自己研鑽に努めています。

平成21年度から、看護師が重症患者の看護ケアを安全に実践できることを目的としてICU院内留学を開始し、現在までに受講生は8名、のべ64時間の臨地実習を行いました。受講生だけでなく、ICU看

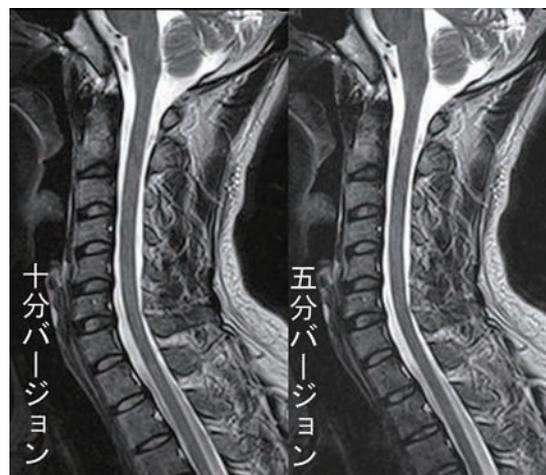
護師にとっても看護実践能力を向上できるよい機会になっています。また、病棟で人工呼吸器を装着している患者に対して、ICU看護師・ME・救急重症ケアチーム委員を含むチームメンバーで週1回、病棟訪問を行い、アラーム対応やSpO₂低下時の対応、人工呼吸器の管理についてアドバイスをしています。平成22年度の対象患者は4名、のべ54回の訪問を行いました。チーム医療を推進し、ICU入室患者様だけでなく、医師や病棟看護師にとっても安全で安心できる、質の高い看護ケアが提供できるようがんばります。



最近の MR 室

主任放射線技師 森 高 正 人

新規MRIが導入され既に5年が過ぎてしまいましたが、この間検査部位にあわせた改良を行ってきました。原理的にMRは時間をかければ高解像度で高SNRの画像が得られます。しかし実際の検査では、痛みや痺れのために、数分程度しか静止できない患者も少なくはありません。当院のルーチン検査は他院と比較すると、元々短い検査時間で検査を行っていますが、それでも検査しきれないケースは時々あります。そこで画質を落とさずに検査時間を短くすることに取り組んできましたが、受信チャンネル数を増やすとかの一般的な方法は使い切った底をつき、現在は撮像に使用するRF(ラジオ波)の出力を上げて頸椎の検査等を10分かかっていたものが5分で撮像できるようになりました(写真は頸椎のルーチン検査で、4シリーズ撮像する中のT2Wサジタルの比較ですが、画質的に変わりがないのがお分かりになるでしょう)。MRIではRFを体に吸収させ、RF波を切った後、身体から放出される電波の出具合が組織によって異なる現象を利用して画像を作成しています。RF波の出力を上げると言うことは、たとえば電子レンジで調理する時、600Wで10分であれば、1,200Wでは5分でできますね！MRの場合も同じことです。しかし、



ここで難しい所は、法律で体重辺りのRF量が定められていて、無制限に出力を増やせる訳ではありません。従って頭頸部等のRF出力が少なくてもよい検査で、画質を低下させることなく時間短縮を行いました。また妊婦さんの骨盤腔の検査等では、胎児が不規則な動きをするため、静止画像が得られないことが多いのですが、解像度を1ピクセル1.8mm程度に大きくすることで、1スライス0.3秒を達成し静止画像が得られています。更に3D検査であるため、1方向撮像することで、後にMPR画像が得られ、胎児のRF被ばくを最小限に抑えられる利点もあります。と言う感じで、今回は一部分の紹介になりましたが、まだ改良の余地はあります。

新居浜公開糖尿病教室開催のお知らせ

平成23年11月26日(土)、12時30分よりリーガロイヤルホテル新居浜において新居浜公開糖尿病教室を開催いたします。

今回は「災害時の糖尿病療養」をテーマにしており、実際に被災地へ行って活動された新居浜協立病

院の谷本浩二先生ほか2名による講演を予定しております。もしもの時、どう災害に対処すれば良いのかを考える良い機会になりますので、皆さまの参加をお待ちしております。(予約は不要です)



新任医師の紹介



氏名 谷川 泰彦
所属部署名 整形外科
趣味・特技 ドライブ
出身都道府県 山口県

フリーコメント

9月より勤務させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

氏名 平野 真理
所属部署名 産婦人科
趣味・特技 水泳、手芸
出身都道府県 福岡県

フリーコメント

まだまだ未熟な私ですが、精一杯がんばりたいと思います。よろしくお願いいたします。



愛媛労災病院市民公開講座「健康教室」予定表

会場: 愛媛労災病院南館2階・大会議室 時間: 15:00 ~ 16:00

回数	開催年月日	演 題	講 師
第97回	2011.10.20 (木)	動脈硬化と心臓病について	佐藤 晃・循環器内科部長
第98回	2011.11.18 (金)	睡眠障害について	稲見康司・精神科部長
第99回	2011.12.15 (木)	画像診断について	重澤俊郎・放射線科部長
第100回	2012.01.19 (木)	中高年のためのメタボ対策と足腰強化法	味生俊・勤労者予防医療部長
第101回	2012.02.16 (木)	高齢者のための眼瞼下垂と逆さまつげについて	黒住望・形成外科部長
第102回	2012.03.15 (木)	家庭のできる救急蘇生	高橋令子・集中治療部看護師長

(注) 日程・開催場所は、変更になることがあります。

※参加無料です

! 広報紙編集メンバー 委員長稲見精神科部長 委員友澤副院長、医局長(中井内科部長)、看護副部長、師長1名(外来田中)、師長補佐1名(北7和田)、小野薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、西主任栄養士、総務課長、庶務係長、地域医療連携室員